



株主のみなさまへ

第110期 中間報告書

平成23年4月1日～平成23年9月30日



子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

株主のみなさまへ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

まだ、東日本大震災の傷が癒えない中、日本全体が復興に取り組んでいます。ここで改めて、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

当社グループも、引き続き、被災地の復旧復興に尽力してまいります。

ここに、第110期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）上半期の、当社グループの業績及び事業活動の概況についてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、引き続き相変わりがせぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月

取締役会長

野村哲也

取締役社長

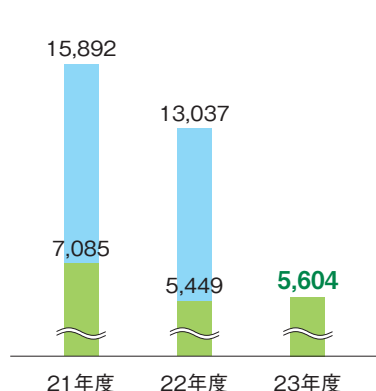
宮本洋一

決算ハイライト

連結売上高

5,604億円

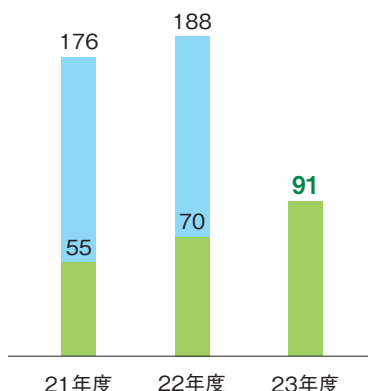
前年同期比 +2.8%



連結経常利益

91億円

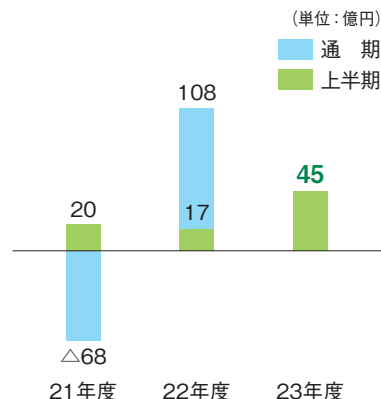
前年同期比 +29.5%



連結当期純利益

45億円

前年同期比 +156.6%



(単位: 億円)

通期
上半期

当上半期の日本経済は、東日本大震災の影響により、年度初めに生産・輸出が大きく減少しましたが、サプライチェーンの復旧及び復興需要の顕在化の兆しが見られ、依然として水準は低いものの、徐々に回復の兆候が表れ始めました。

建設業界においては、震災の影響により、新規設備投資が中止・先送りとなるものも出ましたが、復旧・復興工事の出件が少しずつ始まるなど、業界全体の受注高は、大幅に減少した昨年からの反動もあり前年同期を上回る水準で推移しました。

このような状況のもと、当上半期の売上高は、完成工事高、

開発事業等売上高ともに増加し、前年同期に比べ2.8%増の5,604億円となりました。

利益については、完成工事総利益は減少しましたが、開発事業等総利益の大幅な増加などにより、経常利益は前年同期に比べ29.5%増加し91億円となり、純利益は45億円となりました。

また、中間配当金は、前年と同額の1株につき3円50銭といたしました。

なお、連結有利子負債の残高は、前期末に比べ49億円減少し3,885億円となりました。

事業の概況 (連結及び単体)

連 結

当上半期の事業別連結業績

売上高	5,604億円	前年同期比	+ 2.8%
うち 建設事業	5,080億円	+	1.8%
開発事業等	524億円	+	13.8%
売上総利益	422億円	前年同期比	+ 3.1%
うち 建設事業	339億円	△	8.1%
開発事業等	82億円	+	106.3%
有利子負債残高	3,885億円	23年3月末比	△ 49億円

通期の連結業績見通し

売上高	1兆3,300億円	前期比	+ 2.0%
経常利益	220億円		+16.9%
当期純利益	110億円		+ 1.4%
有利子負債残高	3,800億円以内	23年3月末比	△135億円

■建設事業

売上高は、前年同期に比べ1.8%増加し5,080億円となりましたが、利益については、工事採算の低下により、前年同期に比べ8.1%減少し339億円となりました。

主要な連結子会社

(株)東京鐵骨橋梁 片山ストラテック(株) 第一設備工業(株)
(株)シミズ・ビルライフケア シミズ・ノースアメリカLLC 清水建設(中国)有限公司

■開発事業等

当社において大型投資開発プロジェクトを売上計上したことなどから、売上高は、前年同期に比べ63億円増加し524億円、利益は、前年同期に比べ42億円増加し82億円となりました。

主要な連結子会社

清水総合開発(株) (株)ミルックス (株)エスシー・マシーナリ シミズ・ファイナンス(株)
多摩医療PFI(株) シミズ・インターナショナル・ファイナンス(U.S.A.)社
シミズ・インベストメント(アジア)社

■通期の業績見通し

下半期の日本経済は、東日本大震災の影響により減少した在庫の復元や、毀損したインフラの復旧等で、景気回復の動きが表れるものの、電力供給の制約、欧米経済の減速や円高等の影響により、総じて厳しい情勢が続くものと思われます。

建設業界においても、補正予算の執行によるインフラ復旧工事、民間の復興需要等が予測されるものの、新規設備投資の中止・先送り、企業の海外移転の加速、海外資本の日本離れ等が押下げ要因となり、先行きの見通しが困難な状況が続くものと思われます。

このような状況のもと、平成23年度通期の連結業績は、売上高1兆3,300億円(前期比+2.0%)、経常利益220億円(前期比+16.9%)、当期純利益110億円(前期比+1.4%)を見込んでおります。

また、連結有利子負債の残高は、3,800億円以内を見込んでおります。

単 体

当上半期の当社単体の業績

受注(契約)高	5,215億円	前年同期比 + 10.6%
売 上 高	4,953億円	+ 3.2%
経常利益	75億円	+ 5.3%
当期純利益	40億円	+ 2.4%
有利子負債残高	2,881億円	23年3月末比 △169億円

通期の当社単体の業績見通し

売 上 高	1兆 1,750億円	前 期 比 + 1.8%
経常利益	180億円	+ 9.0%
当期純利益	90億円	+ 4.0%
有利子負債残高	2,900億円以内	23年3月末比 △150億円

■受注(契約)高

当社単体の受注(契約)高は、前年同期に比べ10.6%増加し5,215億円となりました。その内訳は、建設事業98%、附帯事業2%です。

建設事業受注高は、土木工事が大幅に増加したことから、前年同期に比べ11.5%増加し5,093億円となりました。

また、附帯事業の契約高は、前年同期に比べ22億円減少し121億円となりました。

■売上高

売上高については、前年同期に比べ3.2%増加し4,953億円となりました。その内訳は、建設事業95%、附帯事業5%です。

完成工事高は、土木工事は減少したものの、建築工事が増加したことから、前年同期に比べ1.5%増加し4,726億円となりました。

また、附帯事業売上高は、大型投資開発プロジェクトを売上計上したことなどから、前年同期に比べ83億円増加し227億円となりました。

■利 益

利益については、工事採算の低下に伴い完成工事総利益は減少したものの、附帯事業総利益が大幅に増加したことなどから、経常利益は前年同期に比べ5.3%増加し75億円となり、純利益は40億円となりました。

なお、有利子負債の残高は、前期末に比べ169億円減少し2,881億円となりました。

受注工事の主なもの

建築 工事	株式会社読売新聞東京本社	(仮称)読売新聞東京本社ビル新築工事
	8号館PFI株式会社	中央合同庁舎第8号館整備等事業のうち 仮設庁舎等の建設工事を除く建設業務
	シンガポール共和国政府	ナショナルハートセンター新築工事
土木 工事	東日本高速道路株式会社	東京外環自動車道 大和田工事
	東京都	豊洲新市場土壌汚染対策工事(6街区)

完成工事の主なもの

建築 工事	静岡鉄道株式会社	新静岡セノバ新築工事
	株式会社東芝	四日市工場250棟新築工事
	日本赤十字社	足利赤十字病院新築工事
土木 工事	東日本高速道路株式会社	首都圏中央連絡自動車道 久喜白岡ジャンクション工事
	国土交通省	国道7号 摩当山トンネル(北秋田工区)工事

経営方針と重点施策

当社グループは、毎期「経営3ヶ年計画」をローリング方式で策定し、グループ全体の競争力、収益力の強化に努めています。平成23年度を初年度とする現行計画では、現下の厳しい経営環境に対応していくために、以下の経営方針に基づき、諸施策を策定、実行しています。

『経営3ヶ年計画（平成23～25年度）』（要旨）

〈経営方針〉

「先行き不透明な時代にあっても、シミズグループ全体の持続的成長とさらなる進化を目指し、経営基盤の強化と、常に前向きに挑戦し続ける経営を推し進める」

〈重点施策〉

1. 建設事業（コアビジネス）の競争力強化
 - ・「環境」を基軸とした技術・品質の造り込みによる建造物の付加価値の向上
 - ・アフターサービス強化活動の推進によるリニューアル工事受注の拡大
 - ・ものづくり・生産システム改革活動の一層の推進
2. 重点注力分野の確立
 - ・アフターサービス強化活動の推進によるBM事業の拡大
 - ・環境・サステナビリティ分野への取組み強化
 - ・グローバル分野、ストックマネジメント分野を中心とした人材の確保・育成
3. 経営基盤の強化
 - ・CSR経営の継続的实践
 - ・内勤部門の生産性・業務効率の向上



日中グリーンエキスポ2011に出展



小学生向け現場見学会の様子

東日本大震災の対応については、社会基盤、生活基盤をつくり、守ることが建設業の使命と考え、組織・要員を強化し、被災地の復旧、復興及びお客様の事業継続支援等の諸活動に、全社を挙げて取り組んでいます（具体的な活動については、13頁をご参照ください。）。

以上のような取組みを通じ、コーポレート・メッセージ「子どもたちに誇れるしごとを。」に込めた想いを、役員・従業員全員が日常の諸活動の中で実践し、東日本の復興、日本経済の回復・成長に寄与すべく、全力を尽くしてまいります。

会社概況／株式の状況

(平成23年9月30日現在)

創 業 文化元年(1804年)
資 本 金 743億円
売 上 高 1兆1,540億円(平成23年3月期)
代 表 者 取締役社長 宮本 洋一
従業員数 10,917名

■主要な営業所等

本 社 東京都港区芝浦一丁目2番3号
東 京 支 店(東京都港区) 名 古 屋 支 店(名古屋市)
横 浜 支 店(横浜市) 広 島 支 店(広島市)
千 葉 支 店(千葉市) 九 州 支 店(福岡市)
大 阪 支 店(大阪市) 土 木 東 京 支 店(東京都港区)
神 戸 支 店(神戸市) 土 木 横 浜 支 店(横浜市)
四 国 支 店(高松市) 国 際 支 店(シンガポール)
北 海 道 支 店(札幌市) 投 資 開 発 本 部(東京都港区)
東 北 支 店(仙台市) エンジニアリング事業本部(東京都港区)
北 陸 支 店(金沢市) 技 術 研 究 所(東京都江東区)
関 東 支 店(さいたま市)

■海外営業網

大 連	ハノイ	バンガロール	ロンドン
上 海	ホーチミン	グルガオン	ニューヨーク
広 州	バンコク	タシセント	アトランタ
香 港	クアラルンプール	ドバイ	ティファナ
台 北	シンガポール	ヴロツワフ	
シドニー	ジャカルタ	ブラハ	
マニラ	ダッカ	デュッセルドルフ	

■株式の状況

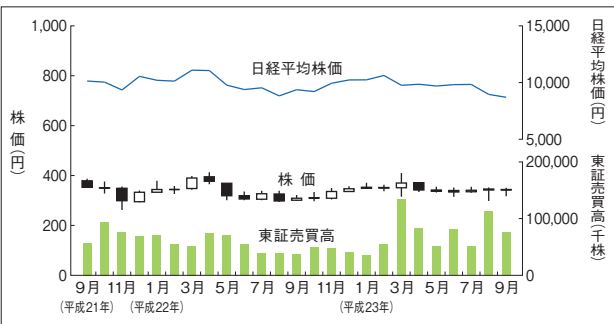
発行可能株式総数 1,500,000,000株
発行済株式の総数 788,514,613株
株主数 48,496名

■大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持分比率 (%)
清水地所株式会社	60,129	7.6
社会福祉法人 清水基金	38,100	4.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	32,480	4.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	31,611	4.0
清水建設持株会	22,352	2.8
一般財団法人 住総研	17,420	2.2
株式会社 みずほコーポレート銀行	16,197	2.1
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	13,196	1.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	12,229	1.6
第一生命保険株式会社	10,564	1.3

※持分比率は、自己株式(2,464千株)を控除して計算しております。

■株価及び売買高の推移



連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

科 目	当上半期末 平成23年9月30日現在	前期末 平成23年3月31日現在	増 減
（資産の部）			
流動資産	8,682	9,643	△ 960
現金預金	1,185	1,362	△ 176
受取手形・完成工事未収入金等	3,381	3,693	△ 312
有価証券	670	1,100	△ 430
未成工事支出金	1,386	1,347	38
たな卸不動産	618	635	△ 16
PFI事業等たな卸資産	483	479	3
その他	971	1,073	△ 102
貸倒引当金	△ 14	△ 49	35
固定資産	4,621	4,592	28
有形固定資産	2,235	2,154	81
無形固定資産	38	40	△ 1
投資その他の資産	2,347	2,398	△ 50
投資有価証券	2,021	2,095	△ 73
その他	390	372	17
貸倒引当金	△ 64	△ 69	5
資産合計	13,303	14,236	△ 932

（資産の部）

有価証券（譲渡性預金）や受取手形・完成工事未収入金等などの減少により、資産合計は、1兆3,303億円となり、前期末に比べ932億円減少しました。

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

（単位：億円）

科 目	当上半期末 平成23年9月30日現在	前期末 平成23年3月31日現在	増 減
（負債の部）			
流動負債	7,155	7,898	△ 743
支払手形・工事未払金等	2,934	3,638	△ 703
短期借入金	1,653	1,610	42
1年内返済予定の プロジェクトファイナンス借入金	58	31	27
未成工事受入金	1,509	1,569	△ 59
完成工事補償引当金	25	25	0
工事損失引当金	192	210	△ 17
その他	780	813	△ 32
固定負債	3,212	3,372	△ 160
社債	700	700	-
長期借入金	1,134	1,277	△ 143
プロジェクトファイナンス借入金	339	316	23
退職給付引当金	551	549	1
関連事業損失引当金	24	26	△ 2
その他	462	503	△ 40
負債合計	10,367	11,271	△ 904
（純資産の部）			
株主資本	2,526	2,509	17
資本金	743	743	-
資本剰余金	431	431	-
利益剰余金	1,366	1,348	17
自己株式	△ 14	△ 14	△ 0
その他の包括利益累計額	380	425	△ 44
少数株主持分	28	29	△ 1
純資産合計	2,936	2,964	△ 28
負債純資産合計	13,303	14,236	△ 932

1株当たり純資産額 370.53円 373.99円

（負債の部）

支払手形・工事未払金等などの減少により、負債合計は、1兆367億円となり、前期末に比べ904億円減少しました。

（純資産の部）

株式相場の下落に伴うその他の包括利益累計額の減少などにより、純資産合計は、2,936億円となり、前期末に比べ28億円減少しました。

連結損益計算書（要旨）

（単位：億円）

科 目	当上半期	前年同期	前年同期比
	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	
売上高	5,604	5,449	2.8%
完成工事高	5,080	4,988	1.8%
開発事業等売上高	524	460	13.8%
売上原価	5,182	5,039	
完成工事原価	4,740	4,619	
開発事業等売上原価	441	420	
売上総利益	422	409	3.1%
完成工事総利益	339	369	△ 8.1%
開発事業等総利益	82	40	106.3%
販売費及び一般管理費	321	323	
営業利益	101	86	17.1%
営業外収益	37	39	
営業外費用	48	56	
経常利益	91	70	29.5%
特別利益	21	9	
特別損失	14	21	
税金等調整前当期純利益	97	58	66.4%
法人税等	53	44	
少数株主損益調整前当期純利益	44	14	
少数株主損失(△)	△ 0	△ 3	
当期純利益	45	17	156.6%
1株当たり当期純利益	5.77円	2.25円	

売上高は、完成工事高、開発事業等売上高ともに増加し、前年同期に比べ2.8%増の5,604億円となりました。

売上総利益は、完成工事総利益は減少しましたが、開発事業等総利益が大幅に増加したことにより、前年同期に比べ3.1%増加し、422億円となりました。

経常利益は91億円、特別損益や法人税等を加減した当期純利益は45億円となりました。

なお、特別利益には固定資産売却益を、特別損失には投資有価証券評価損などを計上しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：億円）

科 目	当上半期	前年同期	増 減
	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	
現金及び現金同等物の期首残高	2,462	2,186	275
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 434	196	△ 631
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 79	△ 89	10
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 77	△ 712	635
その他の増減額	△ 14	△ 7	△ 7
現金及び現金同等物の増減額	△ 606	△ 613	7
現金及び現金同等物の上半期末残高	1,855	1,572	282

営業活動によるキャッシュ・フローは、支払手形・工事未払金等の仕入債務の減少などにより、434億円の資金減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、当社における本社新社屋の建設費などにより、79億円の資金減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済などにより、77億円の資金減少となりました。

この結果、現金及び現金同等物の当上半期末の残高は、前期末に比べ606億円減少し、1,855億円となりました。

単体財務諸表

貸借対照表（要旨）

科 目	当上半期末 平成23年9月30日現在	前期末 平成23年3月31日現在	増 減
（資産の部）			
流動資産	7,104	8,099	△ 994
現金預金	1,003	1,098	△ 94
受取手形	137	106	31
完成工事未収入金	2,935	3,274	△ 339
有価証券	670	1,100	△ 430
販売用不動産	238	325	△ 86
未成工事支出金	1,255	1,279	△ 24
その他	875	962	△ 87
貸倒引当金	△ 12	△ 47	35
固定資産	4,105	4,094	10
有形固定資産	1,599	1,517	81
無形固定資産	29	30	△ 1
投資その他の資産	2,476	2,546	△ 70
投資有価証券	2,154	2,223	△ 69
その他	386	392	△ 5
貸倒引当金	△ 65	△ 70	4
資産合計	11,209	12,193	△ 984

（単位：億円）

科 目	当上半期末 平成23年9月30日現在	前期末 平成23年3月31日現在	増 減
（負債の部）			
流動負債	6,262	7,028	△ 766
支払手形	97	131	△ 34
工事未払金	2,528	3,051	△ 523
短期借入金	1,122	1,141	△ 18
未成工事受入金	1,390	1,495	△ 104
完成工事補償引当金	23	23	0
工事損失引当金	184	199	△ 15
その他	915	985	△ 70
固定負債	2,640	2,827	△ 187
社債	700	700	-
長期借入金	1,058	1,209	△ 151
退職給付引当金	504	504	0
関連事業損失引当金	24	24	-
その他	352	388	△ 36
負債合計	8,902	9,855	△ 953
（純資産の部）			
株主資本	1,882	1,868	13
資本金	743	743	-
資本剰余金	431	431	-
利益剰余金	717	704	13
自己株式	△ 10	△ 10	0
評価・換算差額等	425	469	△ 44
純資産合計	2,307	2,338	△ 31
負債純資産合計	11,209	12,193	△ 984
1株当たり純資産額	293.54円	297.49円	

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

損益計算書（要旨）

（単位：億円）

科 目	当上半期	前年同期	前年同期比
	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	
売上高	4,953	4,801	3.2%
完成工事高	4,726	4,658	1.5%
附帯事業売上高	227	143	58.1%
売上原価	4,611	4,462	
完成工事原価	4,437	4,333	
附帯事業売上原価	173	129	
売上総利益	341	338	0.9%
完成工事総利益	288	324	△ 11.3%
附帯事業総利益	53	13	288.3%
販売費及び一般管理費	259	261	
営業利益	82	77	6.9%
営業外収益	35	41	
営業外費用	43	47	
経常利益	75	71	5.3%
特別利益	21	9	
特別損失	14	5	
税引前当期純利益	81	75	8.8%
法人税等	40	35	
当期純利益	40	39	2.4%
1株当たり当期純利益	5.20円	5.08円	

■中間配当について

- 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき 金3円50銭 総額2,751百万円
- 剰余金の配当が効力を生じる日
平成23年12月2日

受注（契約）高・売上高・繰越高の内訳

（単位：億円）

区 分	前期繰越高	当上半期 受注（契約）高	当上半期 売上高	次期繰越高
建設事業				
建 築	9,110	3,800	3,879	9,031
土 木	3,007	1,293	846	3,453
計	12,117	5,093	4,726	12,485
附帯事業	457	121	227	352
合 計	12,575	5,215	4,953	12,838

建設事業受注高の内訳

（単位：億円）

区 分	当上半期 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	前年同期 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	増 減
建 築			
国 内	3,638	3,821	△ 182
海 外	162	205	△ 43
計	3,800	4,027	△ 226
土 木			
国 内	1,233	526	707
海 外	59	15	44
計	1,293	542	751
合 計			
国 内	4,872	4,348	524
海 外	221	221	0
計	5,093	4,569	524

トピックス

いよいよ工事最盛期

マレーシアで、アジア最大級の導水トンネルを建設中

マレーシア中央部に位置するパハン州とセランゴール州。当社では現在、この2つの州を結ぶ導水トンネルを建設しています。その規模はアジア最大級で、総延長44.6km、直径5.2m。工事は平成21年6月から始まり、平成26年5月のトンネル完成後には、将来の水不足が予想されるセランゴール州に、日量189万㎡の生活・工業用水がもたらされます。

トンネル掘削マシンが相次ぎ発進

本工事は、日本政府の円借款事業であり、平成22年11月10日にTBM（トンネル・ボーリング・マシン）が初発進した際には記念式典が執り行われました。同式典は、マレーシア政府の担当大臣や駐マレーシア大使など300名余りが出席する一大イベントとなり、同国の主要紙でも大きく報じられました。

44.6kmのトンネルは、工期短縮のため、TBM3工区、NATM（発破）4工区、開削工法1工区の計8工区に分けて、同時施工しています。平成22年11月に発進したマシンは、TBMの第3工区用で、同年12月末に同第1工区用、平成23年1月には同第2工区用が相次ぎ発進。工事は最盛期を迎えています。



平成22年11月10日に発進したTBM第3工区用のマシン



高さ50mにも達する巨木が密集する仮設トンネル1の坑口

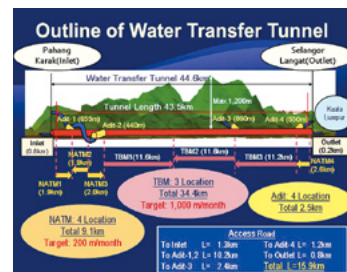


パハンセランゴール導水トンネル建設所のスタッフ

現場一丸となってTBM月進1,000mを目指す

トンネルの掘削にあたっては、TBM掘削のアジア記録・月進1,000mの樹立を目指し、工事を進めています。この目標を達成するために、アメリカのTBMメーカーと、TBMのローラーカッターのサイズや配置に至るまで細かな検討を重ね、通常のTBMと比べ、30%増の推進力を備えたマシンを造り上げました。

現在、各工区とも順調に工程が進捗しており、中には数か月前倒しで進んでいる工区もあります。こうしたマネジメントができるのも、マレーシアで過去に実績のある取引業者や、他のプロジェクトで協働したエンジニア、坑夫など、信頼できる地元スタッフの協力があるからこそ。今後も、作業員全員が一丸となり、工程・安全管理を徹底し、質の高いものづくりを進めていきます。



パハンセランゴール導水トンネルの概要図。「Adit」は仮設トンネル、「Access Road」は工事用道路を意味する

ものづくりの楽しさを満喫!

札幌芸術の森に、子どもたちとツリーハウスを製作

平成23年9月、札幌市にある札幌芸術の森に、子どもたちの手による木製のツリーハウスが完成し、一般公開されました。これは、さまざまな体験を通し、子どもたちの可能性を創造するイベント「ジュニア・チャレンジ・ジャム2011」での取り組み。ツリーハウスの製作に、当社と北海道大学大学院工学研究院が協力し、子どもたちの製作指導にあたりました。



製作したツリーハウス

構想から完成まで、ものづくりの工程を実体験

当社と北海道大学大学院工学研究院が、本イベントに協力するきっかけとなったのが、平成22年11月に若手技術者育成の産学協働プロジェクトとして、同大学構内に製作したツリーハウスでした。この活動が、イベントを主催する札幌市芸術文化財団の目にとまり、今回、子どもたち自らがツリーハウスを製作するワークショップを企画することとなりました。

ツリーハウスの製作テーマは「動物たちが集まる木の上の教室をつくろう」。子どもたちに、自然と建築のかかわりを考えながら、ものづくりの楽しさを体験してもらおうと、計4回のワークショップを開催しました。参加したのは、一般公募から選ばれ

た札幌市内の小学生とその保護者11組。ツリーハウスの構想、設計、組立と、完成に至るまでの工程を段階的に体験し、ものづくりの楽しさを全員で分かち合うことができました。

イベント中、ツリーハウスも当社特設ブースも大盛況

平成23年9月10日と11日に札幌芸術の森で開催された一般公開では、完成したツリーハウスに、2日間で延べ1,600人（うち、子どもが約900人）が訪れ、好評を博しました。また同期間中、イベント会場内に開設した当社の特設ブースには、コースターやキーホルダーなどを製作するクラフト体験コーナーを設置。こちらも2日間で約200人が来訪し、大盛況となりました。

ワークショップの内容

- 第1回 8月7日「森のいきものをさがそう」
ツリーハウス設置予定地周辺で、どんないきものがあるかを探索し、製作イメージを構想
- 第2回 8月21日「教室のかたちをつくろう」
イメージした構想をもとに、大きさの異なる輪を積み重ねて、ツリーハウスの模型を製作
- 第3回 8月28日「いきものたちの入口をつくろう」
製作した模型をもとに、ツリーハウスの形を決定。飾り付けや色塗り、巣箱などの製作を実施
- 第4回 9月4日「教室を完成させよう」
ツリーハウスの組み立て作業を行い、完成



ワークショップでは、当社従業員と北海道大学大学院工学研究院の学生が、子どもたちとコミュニケーションを取りながら作業を進めた



ツリーハウスの大きさは四方2.7m、高さ3.3m

トピックス

より確かな安全・安心に向けて

復旧、復興をはじめとした震災への対応を継続

当社では、東日本大震災における被災地の復旧、復興に引き続き全社を挙げて臨むとともに、既存建物の耐震化工事や節電対策についても取組みを強化しています。また、今回の地震や津波の概要、免震建物の効果や生産施設の被災状況などを分析、検証し、その結果を「東北地方太平洋沖地震関連技術レポート」として、ホームページにて公開しています。

■東北地方太平洋沖地震関連技術レポート <http://www.shimz.co.jp/theme/earthquake/index.html>

仙台、被災した校舎の一部を応急復旧後、本復旧へ

宮城県仙台市にある常盤木学園高等学校では、震災によって校舎の一部が被災しました。当社では、3月15日に同校の被害調査を実施し、直ちに校舎や体育館などの応急復旧工事に取りかかりました。その後、4月7日の大きな余震で、被害が拡大した箇所があったものの、4月9日の新入生のオリエンテーション、4月21日の入学式といった行事を遅延させることなく、安全に応急復旧を完了させました。本復旧工事は入学式後に開始し、9月以降は通常授業ができるまでになりました。



復旧作業の状況



復旧作業完了後の校舎全景



室内復旧作業完了後の部活動の様子

埼玉、岩槻インターチェンジ・ランプ橋を即時応急復旧

3月14日午前、埼玉県さいたま市にある東北自動車道の岩槻インターチェンジ・ランプ橋の支承（橋桁の変形を吸収する部材）が損傷、との一報を受け、当社はNEXCO東日本の関係者とともに、すぐに現地の詳細な調査を開始しました。復旧方法を検討した結果、車両の通行を確保するため、余震でさらに支承部が破損しても路面の段差が発生しないよう、応急的に橋桁を仮受けすることが決定。同日20時頃より順次資機材が到着し、23時頃から本格的な復旧作業に着手。15日深夜にはすべての作業が無事完了しました。



復旧作業の状況



応急復旧完了後の状況。その後、19日には宇都宮インターチェンジまでの通行止めが解除され、復旧支援が本格化し始めた東北地方への一般車両の通行が可能となった

耐震対策 — 外観を変えず明治神宮外拝殿を補強

当社と株式会社木内修建築設計事務所は、昭和33年に再建された純木造建築の明治神宮外拝殿について、伝統的な木造技術のみを用いて、外観を一切変えずに耐震補強する改修工事を行いました。平成23年4月までの1期工事では屋根裏を補強し、6月から9月の2期工事では本工事のハイライトとなった長押（なげし：構造を補強するために、柱同士の上部などを水平方向につなぐ部材）を補強。これにより、震度6強から7程度の大地震にも耐えうる耐震性能を付加しました。



工事中の明治神宮外拝殿。仮囲いのシートに原寸大の外拝殿の写真をプリントしているため、一見ただけでは工事中には見えない



長押と柱の接合部。特殊な加工を施し、がっちりがみ合うようになっている

節電対策 — 最新のエネルギーマネジメント技術を活用

当社技術研究所では、太陽光発電や蓄電池など、さまざまな電源を最適制御する「マイクログリッド」と、電力需要に応じて設備機器（空調機、照明）などを制御する「デマンドレスポンス」を一体化したエネルギー管理システム「シミズ・スマートBEMS」を活用して、ピーク電力を大幅に削減しています。平成23年夏には、使用最大電力の目標値を契約電力比△30%の400kWに設定して同システムを運用した結果、△33%の380kWに抑えることに成功しました。また、本社や支店では空調や照明、エレベータなどの利用を制限し、建設現場でも省エネ状況を一元管理するなど、全社を挙げて節電への取組みを推進しています。

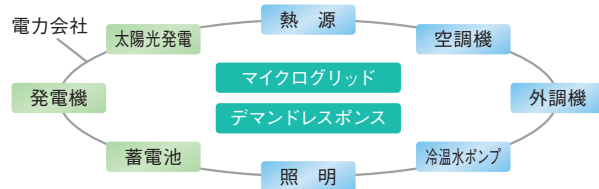
当社技術研究所本館のシミズ・スマートBEMSによるエネルギー制御概要図

■構成要素・制御対象

- ・太陽光発電 14kW
- ・鉛蓄電池 90kW (163kWh)
- ・蓄熱槽 1200kWh相当
- ・熱源 250kW
- ・空調機 30kW
- ・外調機 33kW
- ・照明 7kW



■シミズ・スマートBEMS制御対象



シミズのものづくり

朝日酒造新松籟蔵^{しょうらい}

日本酒の消費嗜好の多様化に伴い、酒造会社の生産体制も、従来の少品種大量生産から、多品種少量生産への移行が求められています。そうした時代のニーズと、

酒づくりに対するお客様のたゆまぬ真摯な姿勢に応えるべく、“最新鋭”と“伝統”を融合させた、新たな醸造蔵の施工に取り組みました。



■工事概要

所在地：新潟県長岡市朝日880-1
発注者：朝日酒造株式会社
設計・監理：株式会社社長建設事務所
工期：平成21年6月～平成23年6月

今回建設した新松籟蔵



朝日酒造本社工場の建物群全景。新松籟蔵は、写真左上部にある白い建物



多品種少量生産に対応する3t仕込みタンク室



ステンドグラスを取り付けた西面外部扉。優しい光が廊下を照らす

お客様から



朝日酒造株式会社 取締役社長
平澤 修 様

当社施設の施工は、25年前から御社にお願いしています。それは、御社が持つまじめな社風と、当社の「品質本位」の伝統を具現化する施工技術と実績、そして、関係者とのコミュニケーションを丁寧にとる姿勢を信頼していること。今回も、それらすべてにおいて、私たちの要望に応える仕事をしていただいたことに感謝しています。

「意匠」という言葉の「意」は私たち発注者の想い、「匠」は御社の技術力。これからの仕事でも、両者の良好なコミュニケーションを築き上げ、自ら誇れる建物をつくり続けていくことを期待しています。

皆の気持ちはただ一つ「お客様の想いに応えたい」

朝日酒造さんの工事に携わるのは今回が2度目。製品工場を建設した前回は工事主任でしたが、今回は現場管理責任者を任せられ、非常に身の引き締まる思いでした。

今回の工事では、品質の高い外壁の打ち放しコンクリートや、プラント 工事長 野田 衛 設備工事との調整、物量が膨大な屋上工事、仕込みタンクの搬入、豪雪期の施工など、数多くの課題がありました。しかし、現場の全員が「お客様の酒づくりへの真摯な姿勢に、なんとしても応えたい」と気持ちを一つにして取り組んだことで、それらすべてをクリア。無事に竣工した今、新松籟蔵から生まれる日本酒を味わえる日が待ち遠しくなりません。



意匠的にも品質的にもレベルの高いコンクリートに

技術研究所の生産技術センターに所属する私は、高品質が求められた打ち放しコンクリートのコンサルタントとして、施工に参画しました。

今回の建物では、打ち放しコンクリートは建物の顔。その意匠性を損なわないよう、誘発目地の本数をできるだけ減らしつつ、表面のひび割れを制御することが最大の難題でした。そこで、ひび割れに強い膨張コンクリートを提案。求める性能を確保するためには、型枠内で1週間以上の養生が必要でしたが、現場が一致団結してその期間を段取りしてくれたおかげで、意匠的にも品質的にもレベルの高いコンクリートが完成しました。



技術支援担当 菊地俊文

“魅せるコンクリート”の仕上がりに思わず涙

朝日酒造本社工場の建物群の外壁は、打ち放しコンクリートで統一されています。その景観をさらに引き立てる“魅せるコンクリート”を実現すべく、コンクリート工事の担当者として、全精力を注ぎました。

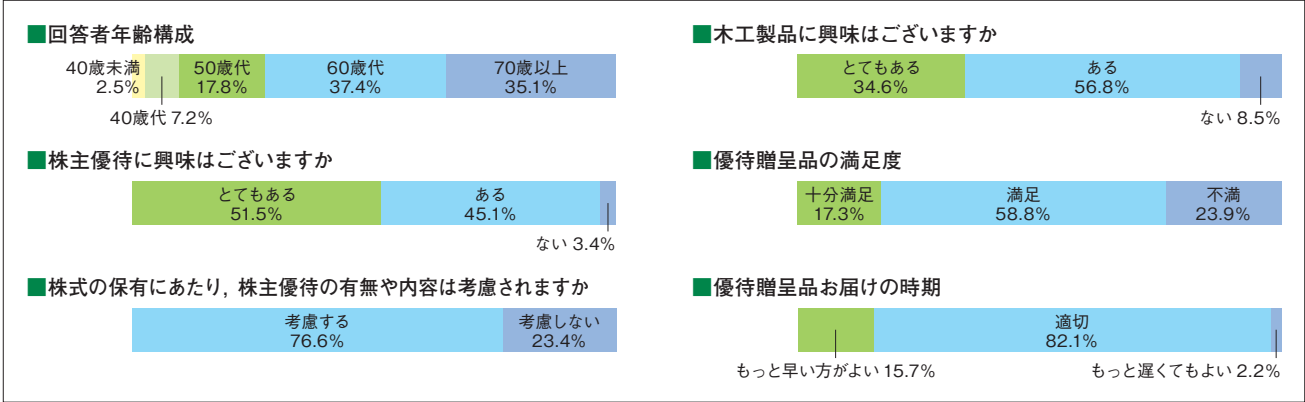
コンクリートの締め固めを完璧に 施工担当 永井直也 行うため、1回当たりの打設量や作業スピードなどを綿密に計画。実際の打設では試行錯誤しながらも、徐々にコツをつかんでいき、60回以上に及ぶ打設作業を無事終えたときは、うれしさのあまり涙が…。竣工後、「日本一の蔵をつくってもらったので、日本一の酒づくりをします」というお客様の言葉が、その喜びを倍増させてくれました。



平成23年3月期 株主優待アンケートの結果ご報告

平成23年3月31日現在1,000株以上ご所有の株主様を対象に株主優待制度を実施いたしました。この株主優待制度についてアンケートを実施し、979名の方からご回答を

いただきました。その結果についてご報告いたします。多数の皆様からご回答をいただき、誠にありがとうございました。



株主様の日 開催のご報告

平成23年11月6日(日)、株主様を対象としたSOA(シミズ・オープン・アカデミー)体験会が開催されました。当社の技術研究所で、地震に関する3D映像や音響実験棟、風洞実験棟などを体験していただきました。参加された株主様からは「分かりやすい説明だったので、専門的な技術のことも楽しく理解することができました」との声も頂戴し、当社の免震技術や幅広い研究の取組みについての理解が深まった様子でした。株主様を対象としたイベントは、今後も実施していきます。

多くの株主の皆様にご来場いただきました



平成24年3月期の株主優待贈呈品について

平成24年3月期の株主優待贈呈品は、前回に引き続き、当社東京木工場で製作した木製グッズといたします。平成24年3月31日現在のご所有株式数に応じて、以下の優待贈呈品をご登録の住所にお送りいたします。送付時期は平成24年7月末頃を予定しております。

ご所有株式数	平成24年3月期の優待内容
1,000株以上5,000株未満	トリベット (なべ敷き)
5,000株以上10,000株未満	カッティングボード (まな板)
10,000株以上	フォトスタンド (写真立て)

※優待贈呈品については、毎年東京木工場が製作する木製グッズをお送りする予定です。



優待贈呈品イメージ

来年度の移転に向けて新本社を施工中

新本社の建設は、平成21年4月に着工し、平成23年10月に上棟を迎えました。現在は、平成24年5月の竣工に向けて内装工事等を施工中です。建物の竣工後には、試験運転や備品の設置等を行ったうえ、順次移転を行い、同年8月頃には移転が完了する予定になっています。



施工中の新本社

ホームページのご案内

表紙写真

国立音楽大学新一号館（東京都）
設計／株式会社 松田平田設計



<http://www.shimz.co.jp/>

当社ホームページでは、「株主・投資家情報」をはじめ、「実績・技術ソリューション」、「CSR活動」など、さまざまな情報を掲載しております。是非、ご覧ください。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日

株主名簿管理人
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 TEL 0120-232-711（通話料無料）
 ウェブサイト <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公告掲載方法 電子公告
 公告掲載URL (<http://www.shimz.co.jp/>)

ただし、事故その他やむを得ない事由によって
 電子公告による公告を行うことができない場合は、
 日本経済新聞に掲載して行います。

株式に関する各種
 お手続きについて

- ☐ 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求
 その他各種お手続きにつきましては、お取引の
 証券会社にお問合せください。
- ☐ 特別口座に記録された株式に関する各種お手続き
 につきましては、三菱UFJ信託銀行（左記連絡先）
 にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行
 全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- ☐ 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託
 銀行本支店でお支払いいたします。

清水建設株式会社

〒105-8007 東京都港区芝浦一丁目2番3号

TEL 03-5441-1111（大代表）

<http://www.shimz.co.jp/>

